

第 2 章

弘前市が目指すもの

1 弘前市が目指す都市の姿

- 1 人口減少へのチャレンジ
- 2 目指す都市の姿
- 3 将来都市構造
- 4 主な実現手法

2 都市全体の暮らしを 楽しむための方針

方針1 中心都市として都市機能を集積させる

- ① まちなかにおける新たな魅力や都市機能の導入
- ② 医療福祉、教育文化施設を生かしたまちづくり
- ③ 産業や流通の振興に寄与するまちづくり

方針2 気持ちよく移動できる環境をつくる

- ① 骨格となる道路ネットワークの整備
- ② 地域特性に合わせた誰もが公共交通で移動できる環境づくり
- ③ 弘前駅及び弘南鉄道大鰐線中央弘前駅の整備
- ④ 自転車まちづくりの推進
- ⑤ 安全で快適な歩行者空間の整備

方針3 自然と折り合いながら四季の生活を楽しめるようにする

- ① 自然環境の保全・活用
- ② 身近な緑地空間の整備・充実
- ③ 弘前市雪対策総合プランに基づく雪対策の推進
- ④ 自然災害に強く安全・安心なまちづくり

方針4 弘前の歴史・文化、個性を光らせるまちをつくる

- ① 旧城下町等における歴史を感じさせる街並みの向上
- ② 歴史・文化資源を相互につなぐ回遊ネットワークの形成
- ③ 弘前市内の観光を促す基盤づくり



弘前市が目指す都市の姿

第1章で整理した「弘前らしさ」をあらためて簡潔に示すと、次のようになります。

都市機能

弘前市はもともとの城下町を中心にコンパクトな市街地が形成されており、高校、大学、病院などの主要な都市機能が市中心部におおむね集約されていて、広域的な中心性を有しています。

交通

主要な幹線道路が整備されており、バス・鉄道などの公共交通も利用しやすく、周辺自治体や主要な都市機能にアクセスしやすくなっています。

自然

市街地の周辺に豊かな自然や農村地域を有する一方で、冬季には雪と折り合いながら暮らすことが求められます。

歴史・文化

多様な歴史・文化資源が重層的に残されており、これらの魅力がコンパクトに集積した観光都市であり、近年では国外からも多くの観光客が訪れています。

弘前市のまちづくりにおいては、この「弘前らしさ」を生かし育むことを基本とし、今後は人口が減少傾向になり、都市が拡大していく時代ではないことを踏まえ、今まで積み上げてきた多様な機能や都市づくりの成果のストックを生かしながら、市民の暮らしの質を向上させていくことを目指します。

1 人口減少へのチャレンジ

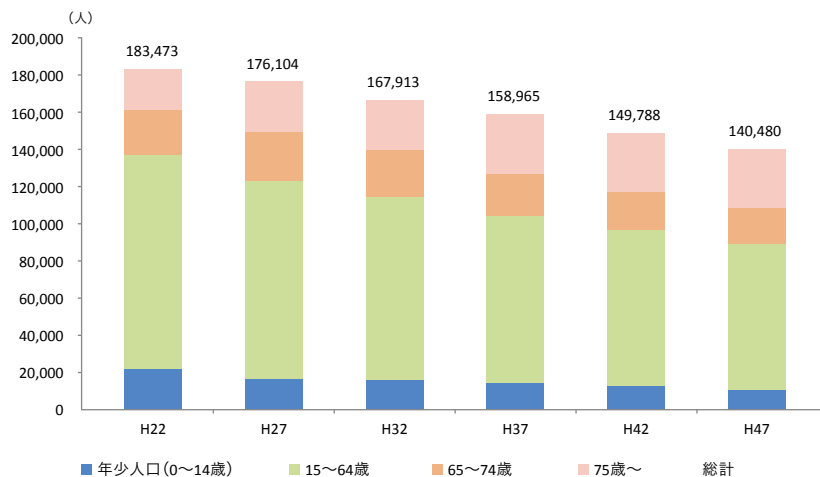
◆ 将来の人口・世帯の見通し

弘前市の将来人口は、平成22年の約18万人から、概ね20年後の平成47年(2035年)には約14万人にまで減少し、世帯数についても、平成22年の約7万世帯から、平成47年には約6万3千世帯となると見込まれています。

▶図表2-1 将来の人口・世帯の見通し(推計値)

人口推計		H22	H27	H32	H37	H42	H47
総計		183,473	176,104	167,913	158,965	149,788	140,480
人口	0～14歳	21,894	19,139	16,803	14,795	13,120	11,974
	15～64歳	114,545	105,087	97,150	90,190	83,237	76,510
	65歳～	47,034	51,878	53,960	53,980	53,431	51,996
	うち、75歳～	24,169	26,454	27,905	31,088	32,196	31,879
構成比	0～14歳	11.9%	10.9%	10.0%	9.3%	8.8%	8.5%
	15～64歳	62.4%	59.7%	57.9%	56.7%	55.6%	54.5%
	65歳～	25.6%	29.5%	32.1%	34.0%	35.7%	37.0%
	うち、75歳～	13.2%	15.0%	16.6%	19.6%	21.5%	22.7%
世帯推計		H22	H27	H32	H37	H42	H47
全世帯数		70,142	71,085	69,987	68,156	65,941	63,060
うち、65歳以上単身世帯		7,009	7,598	7,891	8,010	8,016	7,887
1世帯あたりの人口(人)		2.48	2.40	2.33	2.27	2.23	2.18

▶図表2-2 将来の人口の見通し(推計値)

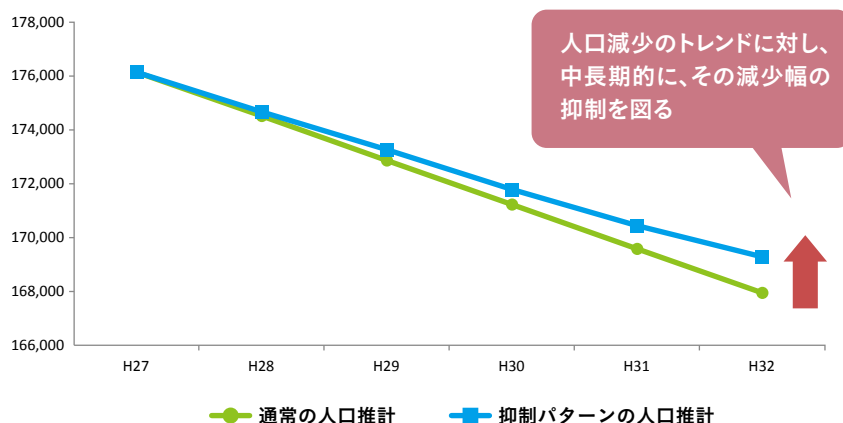


◆都市づくりにおける人口減少対策の取組

このような将来人口の推計に対して、平成26年5月に議決された『弘前市経営計画』においては、「人口減少という社会構造の変化が地域社会に与える影響は非常に深刻であり、地域社会の持続性を保つ上で避けては通れない問題であることから、地域の将来に対する責任を果たすため、できる限りその減少を抑制するよう、地域の力を結集してこの課題に挑戦します」としています。

そして、「笑顔ひろさき重点プロジェクト(人口減少対策)」として、出生数・率、死亡数・率、社会移動数の各要素に対し、人口減少を抑制するための対策を講じるとしています。

▶表2-3 総人口及び出生・死亡・社会移動の推計値(出典：弘前市経営計画)



弘前市都市計画マスタープランでは、このような人口減少対策を都市づくりの側面から後押ししていきます。

2 目指す都市の姿

弘前駅を中心に、市役所や図書館などの公共施設、大学を始めとした学校、病院などが集中し、公共交通や自転車、徒歩で十分生活できる既にコンパクトな街並みが形成され、超少子高齢社会に対応可能な都市・地域規模と考えられる弘前市においては、生活に必要な機能や街の豊かさ・魅力を維持し、歴史・文化的資源、りんごを中心とした良好な農地、岩木山に代表される豊かな自然などの弘前らしさを伸ばし、市民が地域特性に応じて弘前ならではの多様な暮らしを楽しめるまちを目指します。

弘前市が目指す都市の姿

『暮らしを楽しめるまち』

「暮らしを楽しめるまち」は単に便利で快適、安全などといった都市として必要最低限の機能をもっているということではなく、市民が自ら住む環境や地域社会に満足し、これからも住み続けたいと思えること、また一度転出した若い人も是非将来戻ってきたいと思えること、さらには他市町村の住民が住みたいと思うことを目指すものです。

そのためには、弘前市が他の都市にはない個性や歴史、文化を大事にし、それを伸ばしていくこと、すなわち弘前らしさを生かした都市づくりを実践していく必要があります。

また、「暮らしを楽しむ」のは一人一人の市民です。市民が主体的に様々な活動を展開し、まちづくりに関与し、そのようなことを通じてより一層自分の地域や弘前市を愛するようになってもらうことが重要です。

この目指す都市の姿を実現するために、弘前広域都市計画区域マスタープラン(青森県)における4つの都市づくりの基本理念「広域都市計画における効率的でにぎわいのあるコンパクトな都市づくり」「誰もが安心して快適に暮らせる都市づくり」「地域の歴史や自然を活かした都市づくり」「食の生産基盤と先端技術が振興する都市づくり」に即し、また、弘前市経営計画の将来都市像である「子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前」、まちづくりの将来都市像である「雪に克ち、古さと新しさが交わる魅力とやさしさにあふれるまち」に即して、次の4つのまちづくりに取り組んでいきます。



●都市機能が集積したコンパクトなまち

弘前のまちは、弘前市民だけでなく周辺都市に住む人にとっても重要な場所であり、広域中心都市にふさわしい機能の充実が求められます。

特にまちなかは、多くの人々が利用する最大の舞台であるため、多様な都市機能や資源の集積とこれまでのまちづくり成果を生かしながら、新たな居住の誘導を図ります。

また、弘前は、商業だけでなく医療福祉や教育文化などの多様な都市機能が集積していることが特徴であり、これらのストックも活かしながら、幅広い世代が安心して暮らし、活動できるようなまちを目指します。

●集落拠点と市街地が公共交通で連動したまち

移動のしやすい都市としていくため、道路のネットワークを効果的に整備するとともに、車を利用しなくても快適に市内を移動できるよう、公共交通手段を強化します。

また、自転車は弘前のコンパクトな市街地と平坦な地形に適した移動手段であり、環境にやさしい乗り物として自転車を利用しやすいまちを目指します。

●自然と共に生き、安心して快適な生活を送ることができるまち

岩木山をはじめとする山並みや周辺の豊かな農村地域は弘前の貴重な資源であるため、その保全に努めるとともに、市街地内の身近な緑を増やし、潤いのある暮らしの場を形成します。

一方、冬季の積雪も弘前にとっては避けることのできない自然環境であり、四季を通じて暮らしを楽しめるまちを目標に、冬季も快適に暮らせるようなまちを目指します。

●歴史・文化、個性が光るまち

弘前に残る多様な歴史・文化資源を保全・活用し、弘前の個性を際立たせることにより、弘前市民が誇りや愛着が感じられるようなまちにしていきます。

また、観光を弘前の基幹産業の一つととらえ、歴史・文化などの多様な観光資源を生かして、弘前を訪れる人が弘前の良さを堪能し、繰り返し訪れたくなるようなまちを目指します。

3 将来都市構造

目指す都市の姿が実現された都市の姿として、次のような都市構造を目指します。

コンパクトな市街地・集落地を維持し、各地域の拠点に機能を集約する移動しやすい都市構造



【将来の都市構造の考え方】

1. 市域をエリア特性の異なる「まちなか」、「郊外」、「田園」に区分します。
2. 「まちなか」は本市全体の「拠点」とし、「まちなか」に集中する都市機能が周辺に拡散することを防ぎます。
3. 「郊外」と「田園」の各地域に「拠点」を位置づけ、必要な生活サービス・交流機能を誘導、コンパクトに集約します。
4. 「まちなか」では弘前駅周辺と土手町を核としてこれらをつなぎ、まちなか居住を誘導するなど、まちづくりを面的に展開します。
5. 「まちなか」と「郊外」からなる市街地の規模は現状から拡大せず、自転車でも移動が可能なコンパクトな市街地の良さを維持します。
6. 「田園」の自然環境を保全し、各地域(集落)から「まちなか」への公共交通のアクセスを確保します。
7. 「まちなか」と周辺都市を結ぶ公共交通も強化し、周辺都市の人たちがさらに弘前を利用しやすくなるようにします。
8. 「まちなか」、「郊外」の歴史資源、観光資源、高次都市機能を連携する道路交通ネットワークを再編します。

4 主な実現手法

本都市計画マスタープランでは、「暮らしを楽しめるまち」を実現するための手法として特に「市民参加とまち育て」と「都市計画の運用」の2つを重視して、その基本的な考え方を示します。

①市民参加とまち育て

市民参加とまち育ては、旧弘前市都市計画マスタープランにおいて提示したまちづくりの進め方ですが、本都市計画マスタープランにおいても引き続き重視し、取組をさらに進めていくための方策を示します。(第4章)

特に地域ごとのまち育ての展開を具体的に示すと同時に、それを実現するための「人育て」(教育)のあり方についても、大学等との連携も視野に具体的に示し、都市計画マスタープランの策定をきっかけに、各地域で市民主体のまち育てが展開していくような方向性を示します。

②都市計画の運用

本都市計画マスタープランでは、合併後最初の計画であることも踏まえ、主要な都市計画(都市計画区域、市街化区域、都市計画事業等)の適用や変更の考え方を示します。(第5章)

岩木地区については、岩木山に代表される豊かな自然・景観を保全し、これまで通り美しい農山村の風景を維持できるような対策を講じるとともに、岩木地区に豊富に存在する観光資源、歴史・文化資源を活用したまちづくりを進めます。

現在、都市計画区域外となっている相馬地区については、都市計画適用の考え方を整理し、適正で秩序ある土地利用を誘導し、相馬地区がこれまで通り美しい農山村の風景を維持できるよう必要な対策を講じます。

また、現在の都市計画区域においては、市街地拡大は行わないことを原則としつつも、これまで懸案となっていた市街化区域隣接地の土地利用の方向について明らかにするとともに、市街化調整区域や都市計画区域外における集落まちづくりの仕組みについても検討します。

都市全体の暮らしを楽しむための方針

ここでは、まちづくりの4つの主要なテーマに対応した、都市全体でのまちづくりの具体的な方針を示します。

都市機能の集積

方針1 中心都市として 都市機能を集積させる

- ① まちなかにおける新たな魅力や都市機能の導入
- ② 医療福祉、教育文化施設を生かしたまちづくり
- ③ 産業や流通の振興に寄与するまちづくり



交通機能の強化

方針2 気持ちよく移動できる 環境をつくる

- ① 骨格となる道路ネットワークの整備
- ② 地域特性に合わせた誰もが公共交通で移動できる環境づくり
- ③ 弘前駅及び弘南鉄道大鰐線中央弘前駅の整備
- ④ 自転車まちづくりの推進
- ⑤ 安全で快適な歩行者空間の整備



自然との共生

方針3 自然と折り合いながら 四季の生活を楽しめるようにする

- ① 自然環境の保全・活用
- ② 身近な緑地空間の整備・充実
- ③ 弘前市雪対策総合プランに基づく雪対策の推進
- ④ 自然災害に強く安全・安心なまちづくり



歴史・文化

方針4 弘前の歴史・文化、 個性を光らせるまちをつくる

- ① 旧城下町等における歴史を感じさせる街並みの向上
- ② 歴史・文化資源を相互につなぐ回遊ネットワークの形成
- ③ 弘前市内の観光を促す基盤づくり



方針1

中心都市として
都市機能を集積させる

◆ 背景となる課題と市民意向

課題

- 中心市街地におけるこれまでの様々なまちづくりのストックを活用しながら、多様な都市機能の集約、幅広い世代の居場所の確保、歩きやすい環境づくりなどにより、新たな居住を誘導していく必要があります。
- 弘前市の特徴である教育文化、医療福祉等の施設や人的資源の多さを活用して、人口減少・超高齢社会に対応した生活サービスの充実や新たなまちづくりを展開していく必要があります。

市民意向

- 郊外型の商業・娯楽施設を求める声が多い一方で、中心市街地の再生を望む声も多くなっています。
- 高齢者、親子、子ども・若者など幅広い世代の居場所の確保が求められています。
- 若者の働き口や賃金の底上げが求められています。
- イベントなどの取組の周知不足が指摘されています。
- 空き家・空き店舗対策(条例化など)が求められています。

実現の考え方

(丸数字は対応する取組イメージ)

広域中心都市にふさわしい機能の確保と若者等の雇用の創出のため、多様な都市機能の集積を図ります。……………①③

まちなかのまちづくりのストックを生かし、新たな魅力や都市機能を誘導することにより、幅広い世代が暮らし、活動する場を創出します。……………①

医療福祉施設のストックを生かし、人口減少・超高齢社会においても安心して暮らせる市街地を形成します。……………②

1 まちなかにおける新たな魅力や都市機能の導入

まちなかでは、これまで弘前駅から土手町の軸を中心に様々な基盤整備を実施し、まちの活性化を図ってきました。今後は、弘前駅および中央弘前駅周辺の整備等をきっかけにして、来街者がさらに広い範囲を回遊して楽しめるようなまちづくりを進めます。



そのため、これまでの中心市街地活性化に関する取組を継続し、地元の商業者や地権者等と連携しながら、安全で歩きやすい歩行者空間の整備、個性的で魅力のある店舗の集積や街並みの形成、古くなった建物や施設の維持管理や面的・一体的な整備、跡地や遊休地の利活用、多様な世代の居場所の確保、多様なイベントの開催などに取り組んでいきます。

🗨️ 主要な取組

- ◎弘前駅周辺、弘南鉄道大鰐線中央弘前駅周辺の整備と、それに合わせた周辺の歩行者ルートの整備や他の公共交通との連携
- ◎快適な歩行者空間づくり（建物のセットバックによる歩行者空間の確保、ユニバーサルデザイン、舗装、融雪、等）
- ◎上下水道部跡地、第一大成小学校跡地、吉野町緑地一帯（レンガ倉庫含）の利活用
- ◎土淵川周辺の安全・快適な歩行者空間の整備
- ◎歩行者と車が錯綜する箇所での交通規制や速度抑制の導入
- ◎商業施設等の連続性の確保（空き店舗対策の継続、建物低層部への商業・サービス機能の誘導、えきどてプロムナードの活性化、等）
- ◎老朽建築物が集積する地区での身近な再開発[※]の推進
- ◎街並み形成のルールやガイドラインの作成
- ◎まちなか居住の推進
- ◎自転車による利用しやすさの向上（走行空間、駐輪場の確保、等）
- ◎地元主導による各種イベントの開催とPR

※身近な再開発：老朽化した建築物や狭小な敷地が集積する地区で、比較的規模の小さな共同建替えを行い、地区の一体的かつ有効な土地利用を実現する手法

② 医療福祉、教育文化施設を生かしたまちづくり

弘前市の医療福祉関係施設の集積を生かし、大規模病院等を中心として、医療福祉サービスを受けやすくなるような、あるいは自ら健康の維持・増進に取り組めるような環境づくりを進めます。

また、学園都市であるという特性を踏まえ、まちなかにおける学生の居場所づ

くりや大学周辺の快適な環境の整備、大学や学生が地域のまちづくり等に参画するための仕組みづくりなどを進めます。



💡 主要な取組

- ◎医療福祉施設周辺における快適で歩きやすい歩行者空間整備や住宅等の誘導
- ◎医療福祉施設への公共交通サービスの充実
- ◎まちなかにおける若者や学生の居場所づくり
- ◎大学周辺における快適な歩行者・自転車空間や憩いの場の整備
- ◎大学や学生がまちづくり等に参画する仕組みづくり
- ◎大学周辺の街路樹の植栽の整備
- ◎「産と学」や異業種間の交流と連携を充実するための産業情報の基盤づくり

③ 産業や流通の振興に寄与するまちづくり

既存の産業・流通機能を維持・増進するため、関連する交通流動を円滑化するための道路基盤の整備や既存の産業流通地の利用の促進を進めます。

また、オフィス・アルカディア地区が完売した状況を踏まえ、産業用地や流通用地の需要動向を適切に捉えながら、これらの用地の拡大等の必要性について検討していきます。



💡 主要な取組

- ◎産業流通地の交通を円滑に処理し、周辺道路の渋滞を防ぐための道路整備
- ◎既存工業団地等の遊休土地の利用促進
- ◎市街化区域隣接地等における新たな産業用地や流通用地整備の検討

方針2

気持ちよく
移動できる環境をつくる

◆ 背景となる課題と市民意向

課題

- 生活不便地域の改善や産業の振興に寄与するような道路・交通基盤の整備が必要です。
- 公共交通機関の維持や自転車で走行しやすい空間づくりが必要です。
- 田園地域では、バス交通に替わる交通手段の導入などにより、公共交通を維持していくことが求められています。

市民意向

- 中心市街地(土手町周辺)では、駐車場の確保や城下町特有の狭い道路・歩道の拡幅が求められています。
- 公共交通の利便性の向上が求められており、具体的には100円バスの本数や運行ルートの実現などの要望があります。
- 自転車については、自転車道や駐輪場の整備が求められています。

実現の考え方

(丸数字は対応する取組イメージ)

まちなかと郊外の各拠点をつなぐ放射状の道路と、郊外の各拠点や主要な都市施設をつなぐ環状型の道路体系の形成を図ります。……………①

一方、都市の低炭素化にも配慮し、高齢者や障がい者を含め、誰もが自動車に依存しなくても安全・快適に移動できる交通体系を確立するため、公共交通、自転車、歩行者の交通環境の改善を図ります。……………②③④⑤

公共交通については、地域の拠点、主要施設を結ぶネットワークを形成するとともに、田園地域の各拠点とつなぐ公共交通は地域特性に合わせた交通手段を確保します。また、弘前駅及び弘南鉄道大鰐線中央弘前駅の整備を図り、公共交通の利用環境の向上を図ります。……………②③

周辺市町村への移動手段として弘南鉄道大鰐線・弘南線、JR奥羽本線・五能線などの鉄道が重要です。運行本数の増強など利便性の向上を要請していきます。……………②

弘前市の平坦な地形特性を生かして自転車と歩行者のためのまちづくりを推進し、特にまちなか、郊外では市民、来訪者ともに自転車や徒歩で快適に移動できる環境を整備します。……………④⑤

1 骨格となる道路ネットワークの整備

弘前市内の主要な場所に効率良く円滑に移動できるようにするため、放射・環状型の道路体系の形成を基本として、都市計画道路の未整備部分の整備に取り組みます。

整備路線の検討にあたっては、生活不便地域の改善や産業振興への貢献なども念頭に置きながら、整備の優先順位を決定します。



💡 主要な取組

- ◎ まちなかと郊外の各拠点をつなぐ放射状の幹線道路の整備
- ◎ コンパクトな市街地に通過交通が流入しないような環状の幹線道路の整備
- ◎ 郊外の拠点、主要都市施設をつなぐ環状の幹線道路の整備
- ◎ 都市計画道路の整備
 - 3・3・3号下白銀福村線（まちなか交流・青森県）
 - 3・3・6号駅前町取上線（駅前北地区土地区画整理事業・弘前市）
 - 3・4・5号上白銀町新寺町線（景観配慮・弘前市）
 - 3・4・6号山道町樋の口町線（まちなか交流・弘前市）
 - 3・4・26号駅前二丁目線（駅前北地区土地区画整理事業・弘前市）
 - 8・5・3号駅前北一号線（駅前北地区土地区画整理事業・弘前市）
- ◎ 主要地方道弘前・岳・鱒ヶ沢線及び主要地方道弘前・鱒ヶ沢線の整備
- ◎ アップルロードの整備促進
- ◎ 住吉山道町線の整備

② 地域特性に合わせた誰もが公共交通で移動できる環境づくり

地球環境に配慮した低炭素型社会の実現や、高齢者等の交通弱者の移動の確保のため、自動車交通に過度に依存しなくても誰もが市内を自由に移動できるよう、公共交通で移動して暮らせるまちを目指します。

まちなかを中心に運行を開始した循環バスについては、ルートの改善を求める声もあり、その要望を踏まえてより適切なルートを設定していきます。

バス交通については、利用者の少なさから赤字となっている路線も多く、いかに維持していくかが課題になっていますが、利用実態に合わせて、路線の再編や合理化を図りつつ、基幹的路線については維持していきます。また、このような基幹的路線の再編に伴い、田園地域など特に条件が厳しい地域では、乗合タクシー等で代替輸送するデマンド型交通など、持続可能な他の公共交通に代替し、誰もが公共交通で移動できる環境を維持していきます。

高齢者や障がい者が利用しやすい公共交通機関とするため、ノンステップバス等の導入を図ります。

📢 主要な取組

- ◎ニーズに応じた循環バス等のルートの見直し、バスの利便性の向上
- ◎田園地域にふさわしい公共交通の導入（デマンド型交通等の検討）
- ◎低床式公共交通機関（ノンステップバス等）の導入
- ◎青森空港や周辺都市へのバスによる交通利便性の確保
- ◎JR奥羽本線の利便性向上
- ◎弘前駅と弘南鉄道大鰐線中央弘前駅間の公共交通移動環境の向上
- ◎多くの人が利用する公共施設などでのユニバーサルデザインの導入
- ◎主要な交通結節点の環境整備（待合空間、駐輪場等）

③ 弘前駅及び弘南鉄道大鰐線中央弘前駅の整備

公共交通の利用促進のためには、弘前市の核となる弘前駅及び弘南鉄道大鰐線中央弘前駅やバスの駅・バス停などの交通結節機能を強化することが重要です。

そのためには、まちなかの活性化にも寄与するような駅前空間の整備や歩行者動線の構築、他の交通機関



との連携の強化、バリアフリー環境の整備などを進めます。

そのほか、駐輪場の設置や待合空間の整備等を進め、鉄道やバスの利用環境を改善します。

📢 主要な取組

- ◎弘前駅及び弘南鉄道大鰐線中央弘前駅の交通環境・駅前環境の整備
- ◎吉野町緑地と一体的となった弘南鉄道大鰐線中央弘前駅前広場の整備

4 自転車まちづくりの推進

弘前市は比較的平坦な地形とコンパクトな市街地構造から自転車の走行に適しているため、自転車を重要な移動手段としてとらえ、自転車の利用実態を踏まえた効果的な走行ルートを検討し、現在よりも自転車の利用や走行が快適になるような各種の取組を進めます。



④ 主要な取組

- ◎自転車利用マップの作成
- ◎幹線道路等への自転車走行帯の確保
- ◎主要施設及び交通結節点への駐輪場の整備
- ◎レンタサイクルシステムの充実

5 安全で快適な歩行者空間の整備

まちなかについては、安全・快適に回遊しながら買い物・飲食をはじめとする多様な活動を楽しめることが、まちの魅力の重要な要素と言えます。そのため、弘前駅から「えきどてプロムナード」、土手町、弘前公園までの歩行者動線を軸に、周辺の地域資源とつなぐ道路や小路を、自動車を気にすることなく誰もが安全・快適に歩ける空間として整備することで、面的に回遊を楽しめるまちなかづくりを進めます。

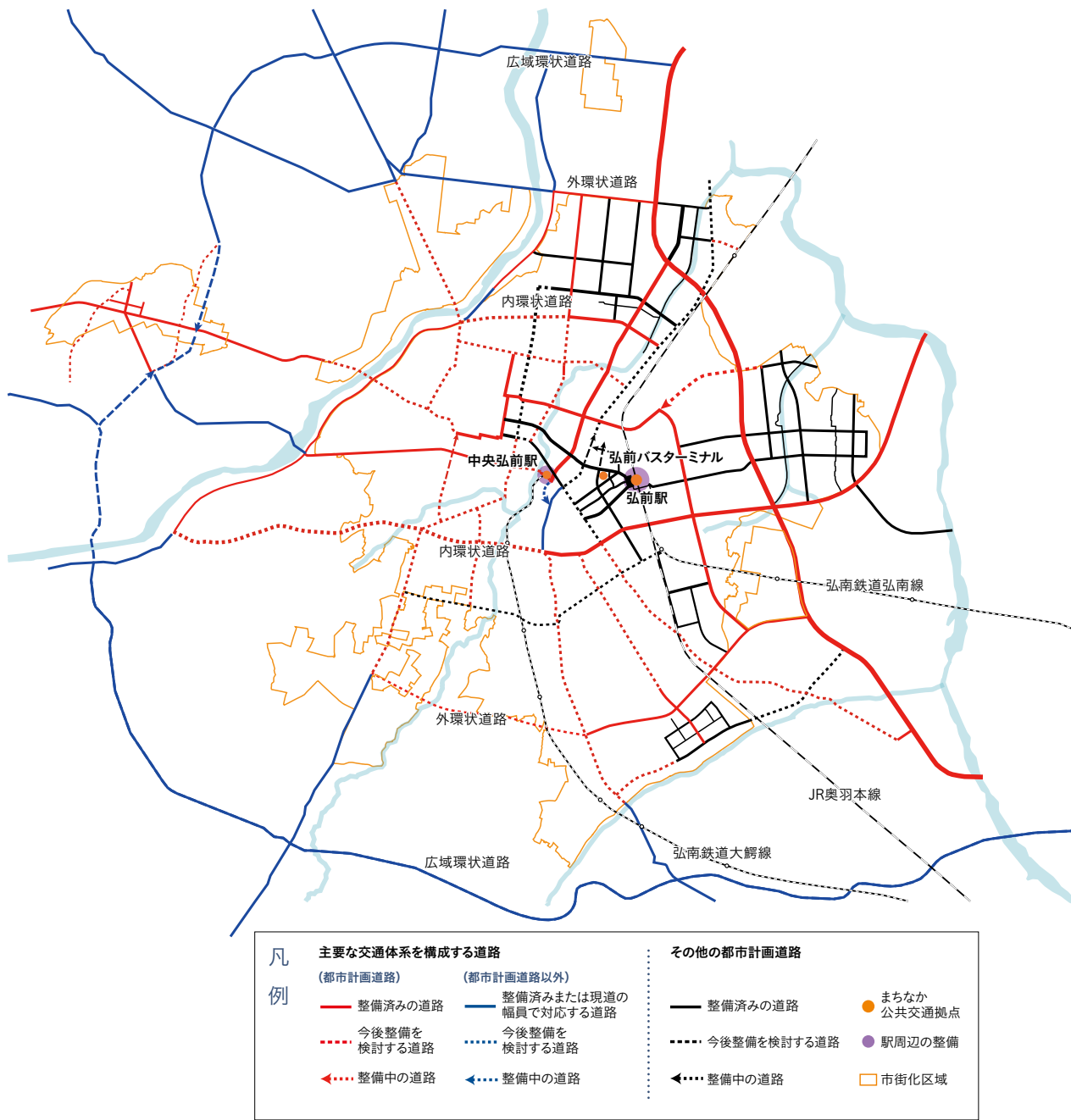


また、郊外の生活道路等についても、歩車の分離や段差の解消、危険な交差点等の改善、交通規制の導入などにより、歩行者の安全性・快適性を高めます。

④ 主要な取組

- ◎快適な歩行者空間づくり(建物のセットバックによる歩行者空間の確保、ユニバーサルデザイン・バリアフリー、舗装、融雪、等)
- ◎歩行者と車が錯綜する箇所での交通規制や速度抑制の導入

▶図表 2-4 交通・移動の方針図



方針3

自然と折り合いながら
四季の生活を楽しめるようにする

◆ 背景となる課題と市民意向

課題

- 弘前市のコンパクトな市街地を維持していくためには、それを支えている周辺の豊かな自然や農村を保全していく必要があります。
- 近年の豪雪の発生に対して市全体で総合的な雪対策に取り組んでおり、まちづくりの分野でもその実現に貢献していく必要があります。

市民意向

- 岩木山は、弘前のシンボルとして高い評価を受けています。
- 近年の大雪に対して強い不満の声が挙がっています。特に、除雪で高く積み上げられた雪で歩行等が困難になっていることが問題視されています。
- 事故や犯罪を未然に防ぐため、歩道に街灯を増やしてほしいなど、防犯についての要望も出ています。

実現の考え方

(丸数字は対応する取組イメージ)

弘前市の周辺部に広がる丘陵地の樹林地や山林は、水源の涵養機能や防災機能などを保全するため、適正な管理につとめます。……………①

生活に憩いや潤いを与える身近なみどりの空間を増やします。……………②

雪と折り合いながら冬季においても生活を楽しめるようにするため、自然環境に負荷をかけないような新たな雪対策に取り組みます。……………③

豪雪だけでなく洪水などの多様な自然災害や犯罪などにも強い、安全・安心なまちづくりを進めます。……………④

1 自然環境の保全・活用

岩木川、土淵川、大和沢川などの水源周辺の樹林地は、適正な管理につとめ、良好な水系を確保していきます。

市街地周辺の斜面林や山林は、良好な自然景観の維持、防災、地下水の保全などのため、その適正な管理につとめます。また、市民の自主的な取組への支援などを検討していきます。

多様な生物が育成できる環境とするために、土壌や大気汚染防止、河川や用水路の水質改善、多自然型護岸への改善などの取組を進めていきます。



④ 主要な取組

- ◎水系維持のための樹林地の保全・管理
- ◎市街地周辺の斜面林の保全や山林の回復
- ◎生物の生息環境の保全
- ◎主要な湧水地における良好な水質の確保

2 身近な緑地空間の整備・充実

市街地内の緑地空間は、憩い・レクリエーション空間の提供のほか、生活環境の改善、地域の防災性の向上、良好な景観の形成、個性的で魅力あふれる地域の形成など多くの役割を担っており、不足する地域を中心に計画的に整備していきます。

公園の整備や再整備にあたっては、誰もが利用しやすい工夫を行うとともに、地域住民の意見を取り入れながら、整備後の管理のあり方も含めて検討します。

みどり豊かな環境は生活の豊かさや快適性にとって重要な要素であり、多様な手法により市街地内のみどりを増やしていきます。



④ 主要な取組

- ◎空き地等を活用した身近な公園・広場の整備、菜園等への活用
- ◎市民との協働による既存公園の管理・再整備
- ◎りんご産業の中核施設にふさわしいりんご公園の再整備
- ◎河川沿いの緑地空間の整備
- ◎公共空間の植栽の充実
- ◎民有地内の生け垣化やフラワーポットの設置
- ◎多自然型護岸など自然植生を生かした河川整備
- ◎弘前駅前北地区におけるスマートパークの整備
- ◎こどもの森や市民の森など、自然と親しめる森の整備
- ◎市民との協働などによるため池や休耕田等を活用したビオトープづくり

3 弘前市雪対策総合プランに基づく雪対策の推進

雪と折り合いながら冬季においても生活を楽しめるようにするため、「弘前市雪対策総合プラン」と連動しながら、まちづくりの分野における雪対策に取り組んでいきます。

特に再生可能エネルギーを活用した融雪システムについては、雪対策だけでなく自立的なエネルギー供給の確保など、多様な目的を実現できる新しいシステムとして重点的に取り組んでいきます。

💡 主要な取組

- ◎地下水や再生エネルギーを利用した融雪装置の設置
- ◎公園、空き地、農地等の雪置き場としての活用
- ◎弘前駅前北地区におけるスマートパークの整備
- ◎雪に強い次世代型住宅地の整備
- ◎地域自主除雪の啓発活動
- ◎町会雪置き場として利用する空き地所有者へ固定資産税の減免
- ◎持続可能で経済的な除雪方法（道路融雪、間口除雪等）の検討

4 自然災害に強く安全・安心なまちづくり

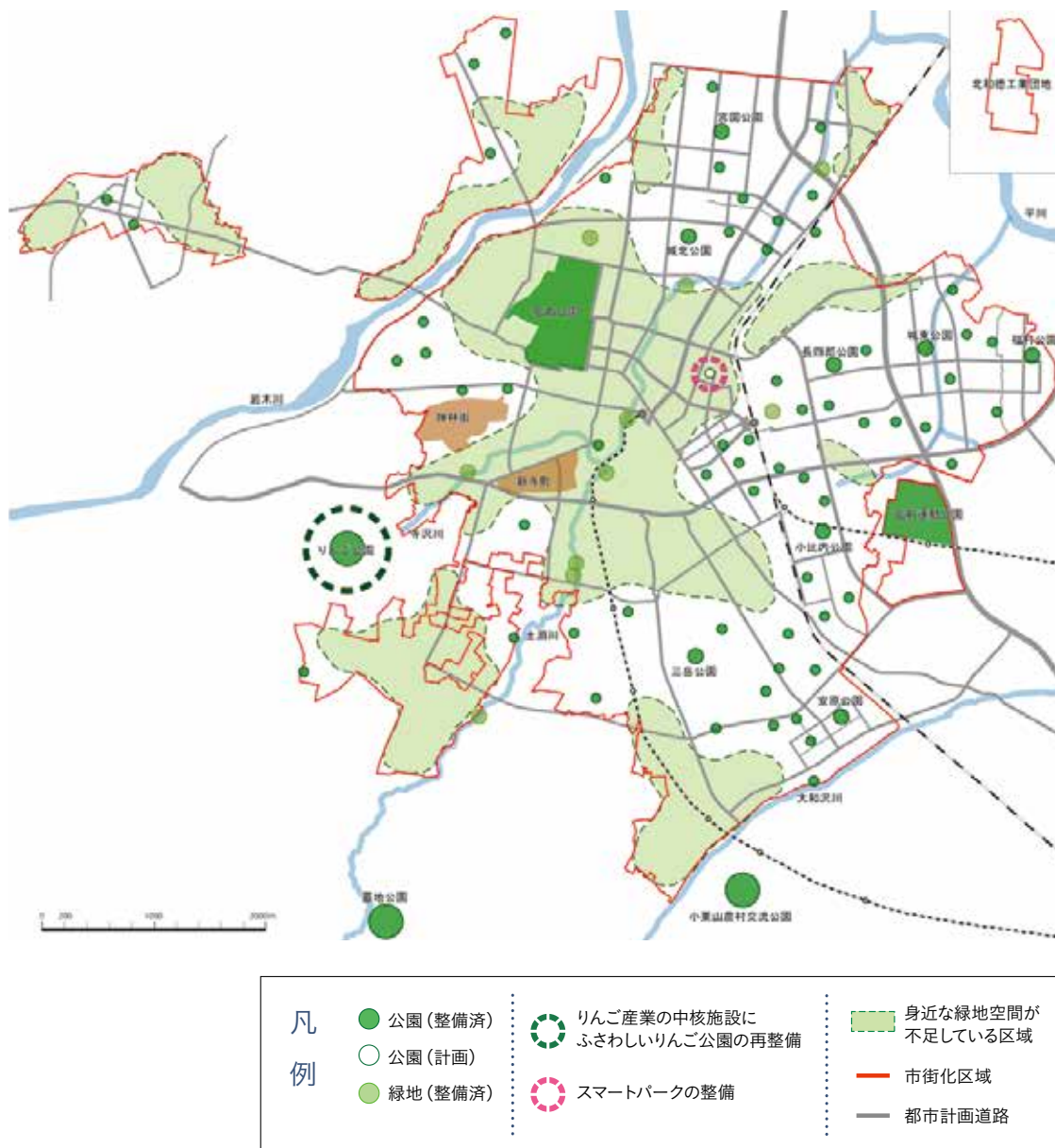
豪雪だけでなく、大地震、集中豪雨、土砂災害、火山災害など多様な自然災害の発生を想定して、ハード面の対策と住民の地域防災力によるソフト対策の両面から、自然災害に強いまちづくりを進めていきます。

また、犯罪にも強いまちを形成するため、防犯に配慮したまちのルールづくりを進めます。

💡 主要な取組

- ◎浸水常襲地区への重点的対応
- ◎地震時等にも供給可能なエネルギー供給システムの構築
- ◎岩木山の噴火時に適切に対応できる体制づくり
- ◎既存公園等の防災機能の充実（防災倉庫、防火水槽の設置等）
- ◎公園等の一時避難場所としての活用
- ◎建物の耐震化の推進
- ◎防災や防犯を意識した街並みのルールづくり
- ◎まちなかにおける電線地中化による消防活動環境の充実
- ◎地域防災力の強化
- ◎地域一体となった防犯のまちづくりの推進

▶表2-5 四季の生活を楽しむまちづくり方針図



方針4

弘前の歴史・文化、個性を
光らせるまちをつくる

◆ 背景となる課題と市民意向

課題

- 歴史・文化資源の保全・活用による弘前の魅力のさらなる向上と、市民生活の豊かさや観光の振興の実現が求められています。
- 多様な観光資源の魅力の維持・向上や交流のための基盤づくりなどによる国際的な観光都市としての発展が求められています。

市民意向

- 城下町としての街並みや歴史的建造物を評価する声がある一方で、すでに歴史的資源は失われており、復活が必要との声もあります。
- 観光の街という共通認識のもと、宣伝不足を指摘する声が多くなっています。
- 中心部の高層マンションによる景観破壊が懸念されています。
- 電線類の地中化による良好な街並みの形成が求められています。

実現の考え方

(丸数字は対応する取組イメージ)

現存する歴史的建造物の保全・活用を図ります。……………①

点として存在する歴史・文化資源やその他の観光資源を相互に結ぶ回遊ルートの整備や、歴史を感じさせる街並み形成を進めます。……………①②

弘前を国際的な観光都市として育成するため、まちなかや周辺の観光資源を周遊しやすくする環境づくりを行います。……………③

1 旧城下町等における歴史を感じさせる街並みの向上

旧城下町地区等においては、各時代の歴史的建造物等が数多く残されておりますが、それらは徐々に失われつつあることから、弘前市の個性を形成する重要な要素として、保全・活用していきます。

また、寺社の周辺などで、建物や街並みに歴史の面影が残る場所については、周辺市街地も含めた街並みのルールづくりや景観整備を行い、歴史や風格を感じさせる街並みを向上させていきます。



📢 主要な取組

- ◎歴史的建造物等の計画的な修理・保全
- ◎歴史的建造物を保全・活用するための支援制度の充実
- ◎景観計画の景観形成重点地区や景観重要建造物の新規指定
- ◎寺社周辺等の一体的な街並み形成や魅力づくり
- ◎城下町にふさわしい街並みを維持するための建築物の高さ制限の検討
- ◎電線類地中化の推進
- ◎道路整備に合わせた沿道の街並み形成
- ◎伝統行事等の保存や継承への支援
- ◎寺社周辺の樹林地の保全
- ◎仲町伝統的建造物群保存地区の整備（電線の地中化促進、生垣づくり）
- ◎弘前公園周辺やねぶた小屋などにおける、まつりを演出する雰囲気づくり
- ◎岩木山神社及び高照神社周辺の一体的保全と整備

2 歴史・文化資源を相互につなぐ回遊ネットワークの形成

旧城下町地区等においては個々の歴史・文化資源が点として分布しているため、それらの資源を相互に結ぶルートを設定し、快適な歩行者空間や休憩スペース等を整備することで、市民や観光客の回遊やまちなかでの滞在を促します。



📢 主要な取組

- ◎歴史・文化資源を回遊できるルートの設定と快適な歩行者・自転車空間の整備
- ◎ネットワーク上の案内板やサイン、休憩スペース等の充実
- ◎ルート周辺の良好な街並み形成
- ◎主要な歴史・文化資源や回遊ルートと観光情報が融合したマップの作成
- ◎外国人観光客が快適に回遊できるよう、観光マップや案内板等における多言語化整備の充実

③ 弘前市内の観光を促す基盤づくり

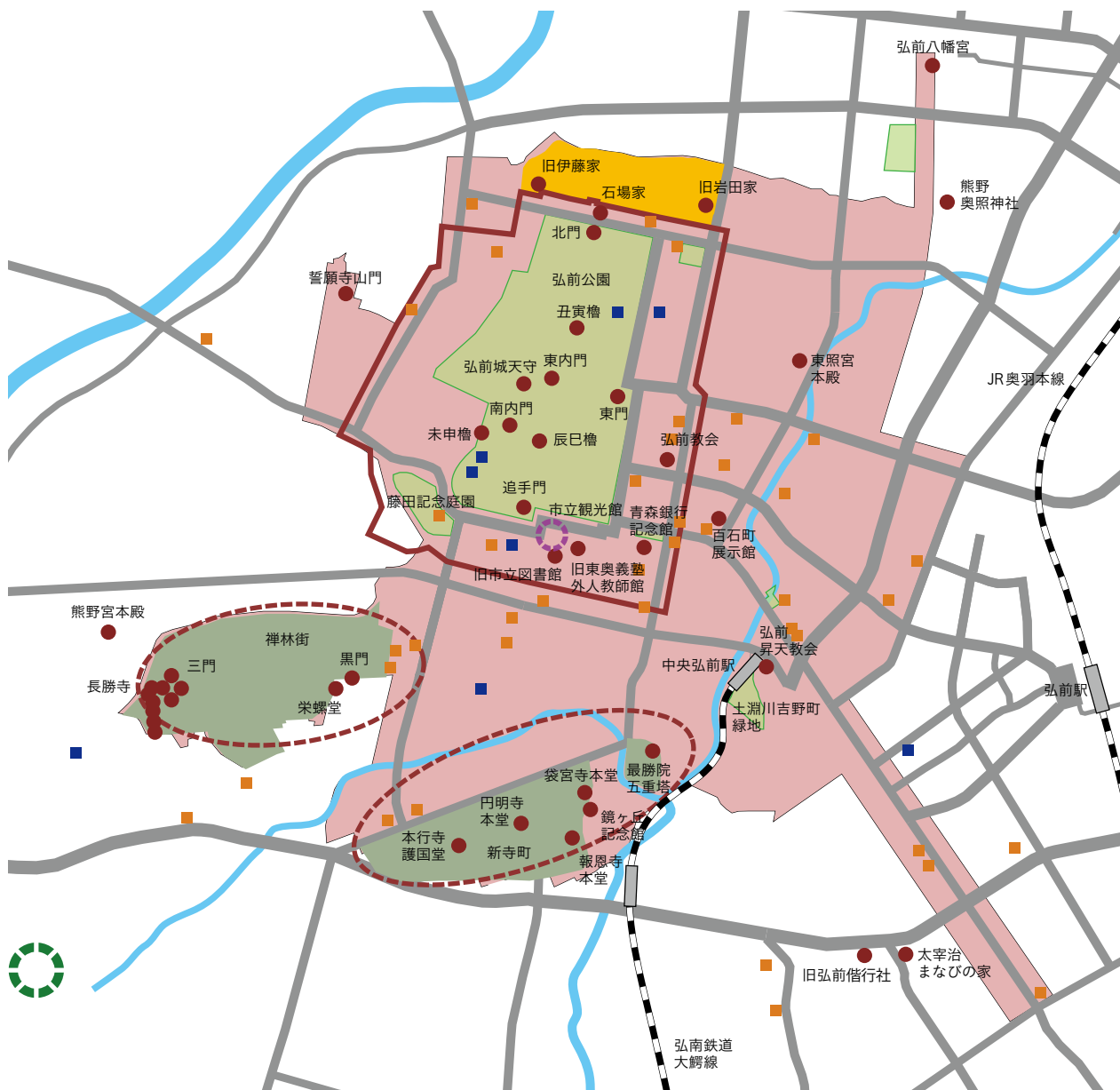
弘前市には、城下町だけでなく周辺部にも、岩木山・白神山地をはじめとする自然資源やりんご園、温泉、スキー場などの観光資源が豊富に存在することから、これらの観光資源を連動させながら有効に活用し、弘前にできるだけ長く滞在してもらえるようにします。



💡 主要な取組

- ◎観光資源の周遊に便利なレンタサイクルの充実
- ◎周辺部の観光資源への移動のためのバスサービスの導入
- ◎弘前市立観光館のリニューアル
- ◎グリーンツーリズムなど体験型観光メニューの充実
- ◎周辺部も含めた観光モデルコースの設定と観光情報が融合したマップの作成

▶図表2-6 歴史・文化、個性を光らせるまちづくり方針図



凡例	
	歴史的風致保全区域(重点区域)
	弘前市仲町伝統的建造物群保存地区
	景観形成重点地区
	歴史を感じさせる街並みの形成
	文化財の保全・活用
	趣のある建物の保全・活用
	前川建築の保全・活用
	りんご産業の中核施設にふさわしいりんご公園の再整備
	弘前市立観光館のリニューアル
	寺社群
	公園・広場
	都市計画道路

